

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会  
再生普及行動計画ワーキンググループ（第1回）  
議事要旨

平成16年7月5日（月）18:00～20:00  
釧路地方合同庁舎4階 共用第三会議室

【出席者（敬称略）】

<個人（所属）>

- ・ 金子正美(酪農学園大学環境システム学部助教授)
- ・ 新庄久志(釧路市ウェットランドセンター主幹)

<団体（出席者）>

- ・ 釧路武佐の森の会（大西英一）
- ・ ボランティアネットワーク・チャレンジ隊（佐竹直子、酒田浩之）
- ・ 釧路湿原ボランティアレンジャーの会（近藤一燈美）

<関係行政機関（出席者）>

- ・ 国土交通省北海道開発局釧路開発建設部（治水課流域計画官／大東淳一）
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター  
（所長／池田敏邦、自然再生専門官／森実祐子）
- ・ 北海道釧路支庁（地域政策部環境生活課自然環境係長／後藤達彦、同主任／藤村朗子）
- ・ 釧路市（環境部環境政策課課長補佐／木村俊宏）

<事務局>

- ・ 環境省東北海道地区自然保護事務所
- ・ 財団法人北海道環境財団

【議事概要】

委員の互選により新庄久志氏を座長に選出し、以下座長の司会により進行。

●議事1 基本的な考え方について

事務局からワーキンググループの基本的な考え方等について資料1に基づき説明し、質疑応答と意見交換を行った。

<委員> このワーキンググループのアウトプットにはどの程度の具体性が求められるのか。

<座長> 「いつ」「誰が」「誰の負担で」「誰／何を対象に」「何をすべきか」についてアウトプットを作ることになるが、来年度の予算との連動も考えるのか。

<事務局> 予算的な計画も含めて、できるものは先行して進める。

<委員> ワーキンググループの目的にある「全体的なバランスの調整」とはどういうことか。

<事務局> 資料にある『市民参加・環境教育の推進に関する10の提言（以下「提言」という）』の具体的施策の進捗状況（未定稿）は、過去に行われた、若しくは現在進行中の事業や取組みについてその目的がどの程度提言の趣旨を含んでいるかをまとめたものである。「全体的なバ

ランスの調整」とは、この提言が求める事業や取組みの実施状況に濃淡が出ないように調整を図るというもの。具体的には、取り組みの少ない部分に取り組みそうな団体に、当ワーキンググループにお越しいただき、働きかけを図っていく。

〈委員〉 このワーキンググループで検討する「行動計画」は、自然再生推進法の範囲内のものか。

〈事務局〉 法に基づく全体構想の中に「行動計画」を位置付け、それに基づいて計画を策定することになる。「行動計画」は法に基づく「実施計画」とは異なり、各主体の自主的な取組みを束ねる性格のものと考えられる。

## ●議事2 行動計画作成スケジュール等について

事務局より資料2、3に基づき説明進め方とスケジュール等についてし、意見交換を行った。

〈委員〉 「できる者」が「できること」からとのことだが、行動は計画がとりまとめられてからはじめるのか。

〈事務局〉 まとめられてから行動に着手するのではなく、現在、進行中の事業や取組みも含め、できることから行動しながら計画をつくる。

〈委員〉 行動計画の検討に先立ち、提言のそれぞれについて、どこまでできているのか、何が課題なのかを把握する必要があるのではないかと。

〈事務局〉 例えば10の提言の3つめや5つめなどは、すでに行われていることや課題を踏まえて提言されている。

〈委員〉 情報発信等は他機関でも行っているが、全体的な議論はどこでやるのか。

〈座長〉 そうした情報もここに持ち寄って、一緒に議論してほしい。

〈委員〉 2回目以降のワーキンググループの進め方がイメージしにくい。

〈事務局〉 提言の「例えば次のようなことが考えられます」という項目が「行動計画」のひとつのイメージである。それぞれの項目について実行可能な団体等にこのワーキンググループに来ていただき、その可能性を探っていく。新しい分野でそのような進展を生み出せるとよい。

〈委員〉 10の提言を個別に議論するのは難しいように思う。

〈座長〉 10の提言を柱にはするが、議論の目標は柔軟に考えていいと思う。

〈委員〉 すでに進行中の事業や取組みもあり、予算措置がなくてもすでに実行に移されている事業や取組みもあることから、全体の優先順位の整理を最初に行った方がよいのではないかと。例えば、予算が必要なものとそうでないものに分けるなどの作業をしてはどうか。

〈事務局〉 提言全体を対象に、活動として補足すべきところ、もっと活動を伸ばしたいところ、緊急性が必要なところをレビューし、事務局で次回議論のための参考資料を作成したい。

〈委員〉 行動計画の全体的なフレームは、10の提言を活かす形で考えるのか。

〈事務局〉 一つのアクションで複数の提言を達成する活動もあり、10の提言の枠には必ずしもこだわらないでいいように思う。

〈事務局〉 提言を見直すのではなく、行動計画を作成することに注力したいと考えているが、必要に応じて提言にフィードバックすることは可能である。

## ● その他

委員からメーリングリストについて提案があったが、当面は、再生普及小委員会のメーリングリストの中で運用し、発信する際に「行動計画WGの皆さんへ」という見出しをつけることとなった。次回は9月上旬に開催する予定。

以上